

## 米国 ドル安でも製品価格は落ち着いた動き (07年5月輸入物価)

発表日：07年6月13日 (水)

～エネルギー関連を除く輸入面からのインフレ圧力は限定的～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### 輸出入物価 (U. S. Import and Export Price Indexes)

	輸出物価	輸入物価					自動車	消費財	実効ドル レート
		除石油	工業原料	石油	資本財				
06/06	+0.7	+0.1	+0.4	▲0.1	▲1.1	+0.2	+0.1	+1.2	
06/07	+0.4	+0.8	+0.0	+1.6	+3.6	+0.1	+0.5	▲0.2	
06/08	+0.4	+0.5	+0.5	+1.1	+1.0	+0.0	+0.1	▲0.7	
06/09	▲0.4	▲2.2	+0.1	▲5.8	▲11.0	+0.0	+0.1	+0.3	
06/10	▲0.3	▲2.5	▲0.6	▲6.9	▲10.4	+0.0	+0.1	+0.3	
06/11	+0.4	+0.4	+1.0	+1.1	▲1.6	+0.1	+0.1	▲0.8	
06/12	+0.6	+1.1	+0.5	+2.7	+4.0	+0.1	+0.3	▲0.7	
07/01	+0.4	▲1.2	▲0.1	▲3.7	▲6.6	+0.0	+0.2	+1.0	
07/02	+0.8	+0.4	+0.0	+1.0	+1.7	▲0.3	+0.0	▲0.3	
07/03	+0.7	+1.6	+0.3	+4.9	+8.7	▲0.1	+0.1	▲0.5	
07/04	+0.3	+1.4	+0.3	+3.7	+6.6	▲0.2	+0.0	▲1.3	
07/05	+0.1	+0.9	+0.5	+2.3	+2.7	+0.0	+0.0	▲0.9	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 未季調、前月比、%。実効レートはFRB算出ベース。

\*1:Automotive Vehicles, Parts & Engines

\*2:Consumer Goods, excluding Automotives

### 輸入物価 (除く石油) は前月比+0.5%

07年5月の輸入物価 (最終財) は、石油・同製品が前月比+2.7%と鈍化したため同+0.9% (前年同月比+1.1%) と小幅鈍化した。市場予想の同+0.3%を上回った。原油価格が1バレル=63.53ドルと小幅下落にとどまり、天然ガスが上昇に転じた。さらに、ドル実効レートが下落したため輸入物価の伸びは予想を上回った。一方、輸出物価は同+0.1%と前月から鈍化した。

変動の大きい石油を除いた輸入物価 (最終財) は天然ガスが同+2.6%と前月の同▲2.7%からプラスに転じたため前月比+0.5% (前年同月比+2.8%) と小幅加速した。しかし、最終製品をみると資本財が同0.0%、自動車が同+0.2%、消費財が同0.0%と安定しており、上昇圧力はそれほど強まっていない。消費財 (除く自動車) はTV等の下落によって横ばいとなった。資本財は、医療機器、一般機械、コンピューター、電気機械・設備の下落によって同0.0%となった。自動車の輸入価格は米国内での競争激化を背景に同+0.2%と低い伸びにとどまっている。

トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では石油が+64.1%と伸びが加速したため、輸入物価は+10.9%とプラス幅が拡大した。一方、変動の大きい石油を除いた輸入物価 (最終財) は+2.4%と低い伸びにとどまっている。

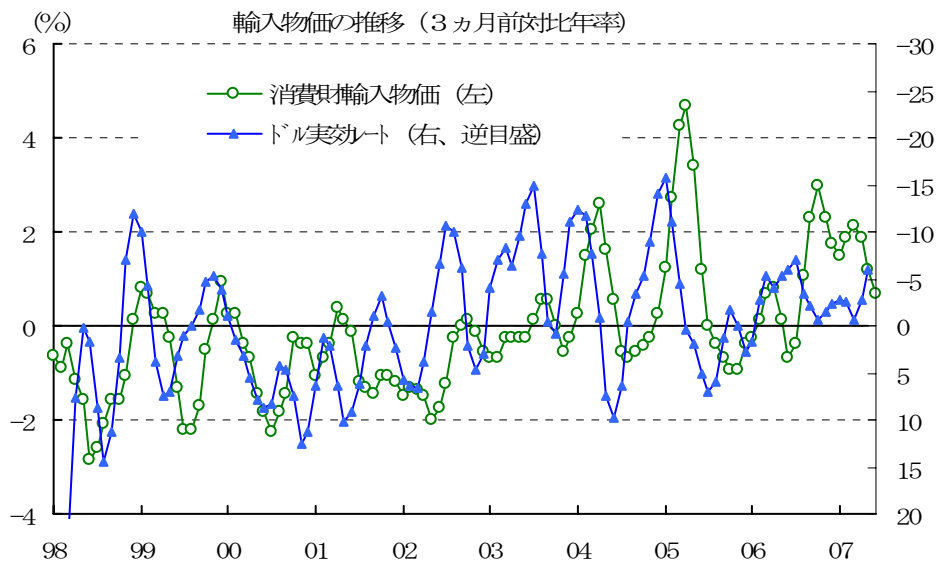
**地域別の輸入物価は、元高ドル安が続くなかで中国からの輸入物価は低い伸びにとどまっている**

地域別の輸入物価をみると、アジアから輸入物価は下落している。カナダが前月比+1.2%（前年同月比+1.7%）、メキシコが同+0.5%（同+3.2%）、ラテンアメリカが同+2.3%（同+0.5%）、EUが同+0.7%（同+2.5%）と上昇している。一方、アジアからの輸入物価をみると、通貨元が対ドルで緩やかに切り上がっている中国が同+0.3%（同+0.1%）と低い伸びにとどまっている。ASEANが同+0.1%（同▲1.1%）、NIESが同▲0.1%（同▲1.0%）、日本が同0.0%（同▲0.5%）とハイテク関連製品の輸入が多いアジアからの輸入物価は下落基調が持続している。

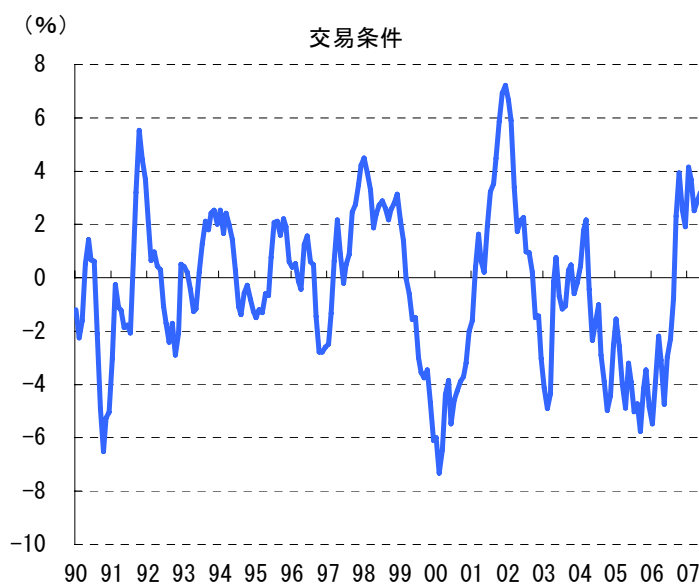
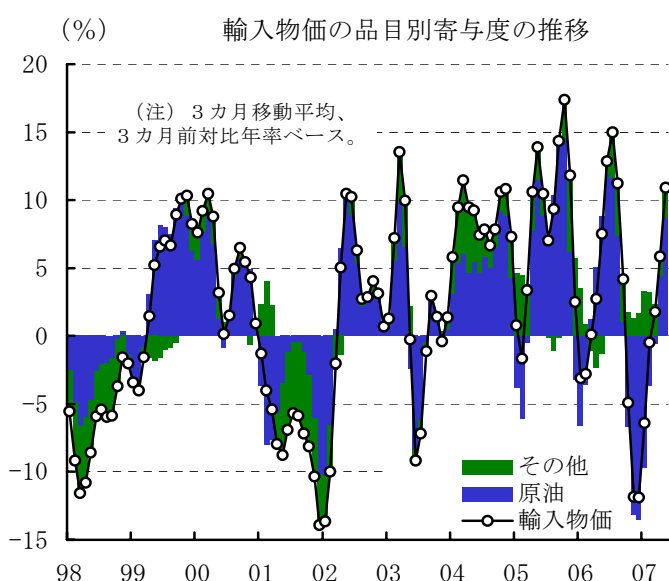
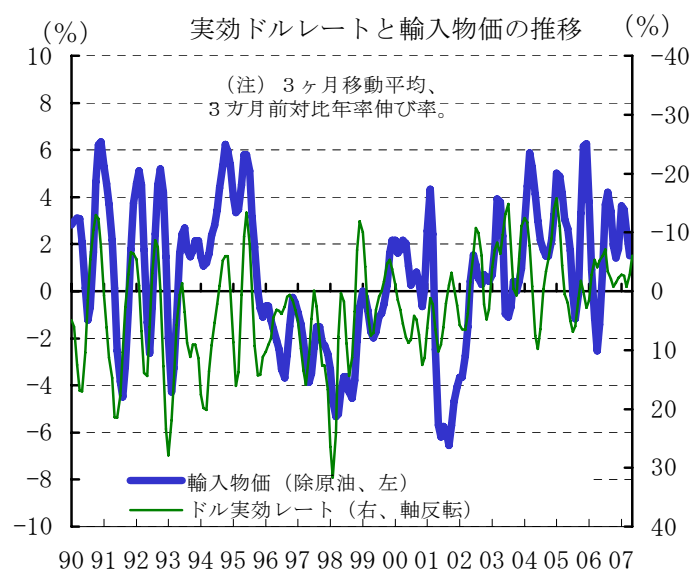
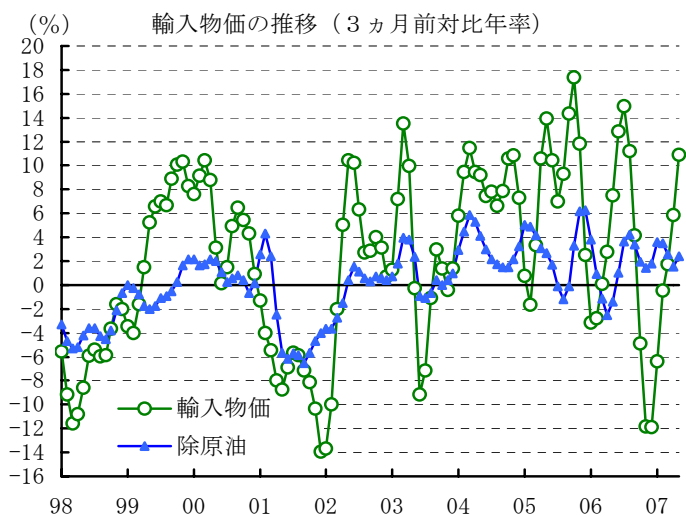
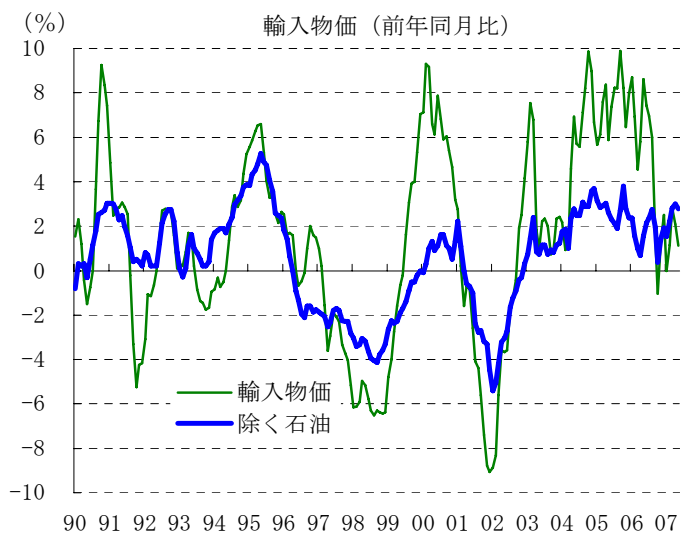
交易条件（輸出物価／輸入物価）は、輸出物価が前年同月比+4.3%とプラス幅が小幅縮小したものの、輸入物価が同+1.1%と低い伸びにとどまっているためプラス水準を維持しており、マクロでみた米国の対外収益性は良好な状態にある。

**今後も、製品の輸入物価上昇圧力は限定的なものに**

今後の輸入物価を取巻く環境については、エネルギー価格の高止まりや、対元でのドル下落、巨額な貿易赤字を背景にドル実効レートは上値の重い展開が見込まれる。しかし、製品価格は世界的な価格競争の強まりを背景に価格転嫁が限定的なものにとどまると予想されることから、エネルギー価格を除くコアの輸入物価は落ち着いた動きが続くとみられる。このため、輸入面からのインフレ圧力はエネルギーに限られたものとなる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。